

B-5 次の記述は、受信機の選択度の測定について述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。なお、同じ記号の□内には、同じ字句が入るものとする。

- (1) 受信機の実効度は、測定に使用する □ア の台数や測定の目的により、1信号選択度と2信号選択度に大別できる。
- (2) 2信号選択度は □イ とも言い、強い妨害波が存在 □ロ 場合の選択度であり、その測定には2台の □ア を信号源として用いる。代表的な2信号選択度には、感度抑圧効果、□エイ 変調及び相互変調があり、これらは、希望波への影響を一定値以内にするために許容される □オ のレベルを示すものである。

- |     |       |       |               |          |
|-----|-------|-------|---------------|----------|
| 1 過 | 2 妨害波 | 3 しない | 4 パルス発生器      | 5 周波数選択度 |
| 6 混 | 7 熱雑音 | 8 する  | 9 標準信号発生器(SG) | 10 実効選択度 |

標準信号発生器  
 9 10 8 6 2  
 一信号選択度 近接周波数 帯域同波数 スパルスレスポンス  
 二信号選択度 混交調 相互変調 感度抑圧  
 (実効選択度)

(HZ512-8)



「実効度」は、測定に使用する□アの台数や測定の目的により、1信号選択度と2信号選択度に大別できる。

2信号選択度は□イとも言い、強い妨害波が存在□ロの場合の選択度であり、その測定には2台の□アを信号源として用いる。代表的な2信号選択度には、感度抑圧効果、□エイ変調及び相互変調があり、これらは、希望波への影響を一定値以内にするために許容される□オのレベルを示すものである。

「実効度」は、測定に使用する□アの台数や測定の目的により、1信号選択度と2信号選択度に大別できる。

2信号選択度は□イとも言い、強い妨害波が存在□ロの場合の選択度であり、その測定には2台の□アを信号源として用いる。代表的な2信号選択度には、感度抑圧効果、□エイ変調及び相互変調があり、これらは、希望波への影響を一定値以内にするために許容される□オのレベルを示すものである。